

社会との連携をどのように進めていますか？

JR東日本グループは、社会の一員として地域・国際社会との交流を進めています。企業市民としての役割を果たすために、駅を中心としたコミュニティづくりをはじめ、福祉、文化、国際協力を通じた社会貢献活動を行っています。

地域社会の豊かさをめざして

駅型保育園と介護事業

JR東日本グループは、少子高齢社会のニーズに応え、駅に近い利便性と安心・信頼のサービスを提供する「駅型保育」と「介護」の事業展開を、地方自治体などと協力して積極的に進めています。

2006年4月現在、駅型保育園は計18園、介護施設は計3園。そのうち、埼京線・埼玉新都市交通ニューシャトル沿線には現在保育園を8園設置しており、「点」ではなく「線」として保育園を展開することにより、「子育てしやすい沿線」にすることをめざしています。



好評につき、武蔵浦和に2園目となる「武蔵浦和桑の実保育園」が開園しました

駅がもたらす地域活性化

JR東日本は、駅を単なる乗降施設ではなく、情報と文化の発信基地にすることで、地域の活性化に貢献しようと考え、さまざまな手法で駅の活性化に取り組んでいます。具体的には、駅舎と公共施設の併設や、街づくりと連携した外観のリニューアルなどに取り組んでおり、2005年度は、駅周辺の諸施設にヨーロッパ風の暖色系外壁を採用し、駅前広場全体の街並みに

調和した山梨市駅のリニューアルなど、4駅の活性化を実施しました。



街づくりと連携して外観を改装した中央本線山梨市駅

観光開発

近年、自然景観の保護や、地域住民の社会生活基盤の維持・向上などを視野に入れた、バランスのよい観光開発が求められるようになってきました。JR東日本は、「観光開発は地域おこし」と考え、地元と協力したコンセプトづくりから、首都圏への情報発信に至るまで、地域と密着した観光地づくりを長期的な取り組みとして展開しています。また、地域の方の足であると同時に、観光客の方にも楽しんでいただける「ジョイフルトレイン」を五能線、大湊線などで運行しています。



五能線沿線の美しい景色を楽しむ「リゾートしらかみ」

次世代を育むために

鉄道少年団の活動支援

鉄道少年団は、青少年の交通道德の高揚を目的に（財）交通道德協会が運営し、JR東日本管内では12支部約500人の団員が駅の清掃活動や各種鉄道施設の見学などを行っています。JR東日本は支社内に事務所を設置し、運転シミュレーターの体験機会を提供するなど、活動支援を継続しています。



駅の清掃を行う鉄道少年団員

鉄道施設でイベントを実施

車両製作所や各地の総合車両センターなどでは、より多くの人に鉄道に親しんでいただくために、施設を開放してイベントを定期的で開催しています。そのうちのひとつである大宮総合車両センターのイベントでは、環境への取り組みもご紹介し、約3万名のお客さまが来場されました。



間近で見学できる車両展示や、ミニSL体験などを用意。地域の皆さまにも人気です

国際社会への貢献

海外鉄道関係者への協力

JR東日本の民営化を成功させた経験や、新幹線やSuicaに代表される先端技術をはじめ、地球環境保護、生活サービス事業など、さまざまな分野で各国の鉄道関係者から関心が寄せられています。2005年度は、38カ国643名の海外の鉄道関係者の訪問を受け、講義や現場視察などを行いました。当社の持つノウハウが各国鉄道で役立つように努めています。

さらに、国際協力機構などの要請に基づき、アジアなど近隣諸国への鉄道専門家の派遣を行い、現地での指導などを通じて、国際協力を進めています。

▶ 国際協力の2005年度実績

派遣	長期(1年以上) 短期(1年未満)	1カ国1名 2カ国5名
受け入れ	国際協力機構 (JICA)研修員	26カ国45名

諸外国鉄道との交流

ドイツ鉄道、イタリア鉄道、フランス国鉄との間で協力協定を締結し、当社と各鉄道との間で、研究開発や経営などに関する情報交換を行い、長期的な交流を視野に置いた社員の派遣や受け入れを相



2006年4月に東京駅とオランダ・アムステルダム中央駅との間で姉妹駅協定を締結しました

互に行っています。また、中国や韓国などアジアの近隣諸国に対しても、技術、経営など鉄道全般に関する情報についての交流を行っています。このような各国鉄道との交流を通じて、世界における鉄道の発展に貢献するように努めています。

東日本鉄道文化財団を通じた取り組み

活動とその目的

JR東日本は、安定した社会貢献活動を継続するため、1992年に(財)東日本鉄道文化財団^{※1}を設立し、鉄道を通じた地域文化の振興、鉄道に関わる調査・研究、国際文化交流の事業を推進しています。

鉄道博物館の建設・運営

現在埼玉県さいたま市に建設中の鉄道博物館は、2007年10月に開館の予定です。同館では、旧交通博物館から引き継ぐ文化遺産や、35両の保存車両をはじめとした、鉄道に関する豊富な資料を展示・収蔵し、調査・研究を行います。鉄道システムの変遷を産業史として伝える「歴史ゾーン」、鉄道の原理・仕組み・最新技術を体験学習できる「教育ゾーン」を設



2007年10月開館予定の鉄道博物館

けるなど、規模・質ともに世界でトップクラスの鉄道に関する博物館となります。

鉄道に関する調査・研究と国際交流

「鉄道文化と新しい交通社会の探究」を基本テーマとした調査・研究を支援し、その成果を財団の事業活動情報とともにホームページで公開しています。そのほかの各種資料についても、テーマ別にCD-ROMやDVDとして刊行しています。

また、世界各国の有識者の意見交換の場として評論誌『JRTR』^{※2}をはじめ、鉄道関係の英文図書を発行しています。

さらに、アジア各国の鉄道の若手を中心とした幹部職員を日本へ招き、鉄道経営、技術などの研修を実施しています。2005年度は、中国、インドネシア、マレーシアなど9カ国から計49名を受け入れました。

地域文化の振興

東京駅駅舎復原工事に伴い東京ステーションギャラリーは休館中ですが、展覧会は旧新橋停車場をはじめ代替の会場で開催を継続しています。

また、地域文化の振興をめざし、東日本各地の貴重な文化遺産や伝統芸能の保存と継承のために助成を実施しています。2005年度は「鹿沼今宮付け祭りの保存・伝承事業」(栃木県)や「月山旧六十里越街道保存整備事業」(山形県)など14件、約5,700万円の助成を行いました。

※1 東日本鉄道文化財団
URL: <http://www.ejrco.or.jp/>
電話:03-5334-0623

※2 評論誌『JRTR』
『Japan Railway & Transport Review』